山 岳 遭 難 発 生 状 況

（令和７年１月１日～令和７年12月31日）
地域部　山岳安全対策課

１　山岳遭難発生状況（暫定値）　（令和６年数値は１月１日からの同期間数値）

区　　分	発生件数	死　者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 ７ 年	358	51	4	171	166	392
令 和 ６ 年	321	50	3	142	155	350
前 年 同 期 比	37	1	1	29	11	42

２　山域別発生状況

区　　分		件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	68	19.0%	10	0	34	30	74
	後立山	88	24.6%	9	0	38	57	104
	その他	57	15.9%	2	0	36	25	63
計		213	59.5%	21	0	108	112	241
中央アルプス		24	6.7%	6	1	10	9	26
南アルプス		12	3.4%	0	2	8	2	12
八ヶ岳連峰		39	10.9%	5	0	21	14	40
その他の山岳		70	19.6%	19	1	24	29	73
計		358		51	4	171	166	392

３　態様別発生状況

区　　分	件　数	件数比率	死　者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	94	26.3%	28	0	68	0	96
転　　倒	90	25.1%	1	0	89	0	90
病　　気	28	7.8%	8	0	0	20	28
道 迷 い	34	9.5%	0	0	0	51	51
落　　石	7	2.0%	0	0	7	0	7
雪　　崩	2	0.6%	1	0	1	1	3
落　　雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	58	16.2%	2	0	0	60	62
不明・他	45	12.6%	11	4	6	34	55
計	358		51	4	171	166	392

４　男女別・年齢別比率

区　分	男　性					（人）比率	女　性					（人）比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
１９歳以下	0	0	0	8	8		0	0	1	0	1		9	
２０ 代	1	0	4	18	23	47	0	0	1	5	6	20	29	67
３０ 代	4	1	4	7	16	17.4%	1	0	4	8	13	16.4%	29	17.1%
４０ 代	5	1	13	15	34	86	1	0	16	3	20	48	54	134
５０ 代	7	0	21	24	52	31.9%	1	0	21	6	28	39.3%	80	34.2%
６０ 代	11	1	31	26	69	137	0	0	22	8	30	54	99	191
７０以上	20	1	18	29	68	50.7%	0	0	15	9	24	44.3%	92	48.7%
計	48	4	91	127	270		3	0	80	39	122		392	
比　率	68.9%						31.1%							

（※　比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。）

先週の発生（12/22～12/31）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
12月27日	神坂山	女	30	負傷	転倒	２人パーティで神坂山から下山中、転倒、負傷
12月27日	岩岳山	男	78	無事救出	道迷い	単独で岩岳山周辺を散策中、道に迷い、行動不能
12月28日	北アルプス 常念岳	女	32	死亡	不明	単独で常念岳に入山し、何らかの原因で、行動不能
12月31日	八ヶ岳連峰 赤岳鉱泉	男	16	無事救出	その他	２人パーティで赤岳に入山し、凍傷により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

昨年12月22日から31日までの間、1件の死亡遭難を含む、4件の山岳遭難が発生しました。

岩岳山で発生した遭難は、ハイキング中に道に迷い、行動不能となり、救助要請したものです。

この時期は、基本的に登山道は雪で隠れているため、自分でルートファインディングをする必要があります。山によっては、登山地図や登山アプリに記されている無雪期のルートどおりに歩けるわけではありません。

登山者が多い山であれば、トレースが残っていることもありますが、他人のトレースをあてにするのは危険です。また、新雪が降った後は、トレースが消滅してしまいます。冬山登山では、正しいルートを自分で判断するための知識・技術が必要です。

その上で、無雪期以上に地形図やGPSをこまめに確認しながら、自分が正しいルートを歩いているのか、確認しながら登山をすることが重要です。

また、全くトレースがない場所では、ラッセルが必要となり、想像以上に時間や体力が必要になることも予想されるため、ゆとりを持った登山計画を立てましょう。